巻　　頭　　言

2022年度年報　発刊にあたり

社会医療法人蘇西厚生会　松波総合病院
理事長　松　波　英　寿

今後の医療を展望するにあたり、最も大切な視点は少子高齢化に歯止めがかからず、国力・特に経済力が弱体化し、二流国に転落しかけている現実を踏まえると、戦後長年にわたって享受してきた、そして漠然と当たり前だと認識していた **“医療は聖域”“国民はだれでも等しく一流の医療が受けられる”“医療は安いお金で受けられる”** といった概念を完全に捨て去らなければならないことだと思います。歴史的に見れば、確かに日本医師会が厚生省と対峙した経緯があり、“医療は聖域”で医療機関・特に開業医は多大な経済的恩恵を勝ち取ってきましたが、この30年でどんどんその特権が奪われ、現在“医療は聖域”と信じている人は少ないでしょう。先進欧米諸国と比較すると、社会主義的要素の強い医療体制を構築した本邦では、“誰でも等しく一流の医療が受けられる”といったスローガンがしばしば聞かれましたが、治療の標準化が困難になるほど医療は深化・進化し、同一疾患に対する診断・治療も、その内容は施設間で驚くべき差ができているのが現状です。“医療は安い”も往時は自民党の選挙対策で高齢者の医療が無料の時代もありましたが、高齢者のみならず、すべての国民に自己負担が求められ、その額も実質的には年々増加しています。

私たちは資源の乏しい国でありながら、必死に戦後の復興に力を入れ、2010年まではGDP世界2位を維持していました。しかし構造改革が遅れ、平成の低成長の時代に少子高齢化が重なり、国全体で見れば巨額の借金を抱える国になって久しく、現時点で名目GDP27位の国では医療だけを特別視できないのは必然です。むしろ恩恵のあった時代にその次に来るべき時代を予想して、対策をとって来なかったことが最大の問題でしょう。それは国レベルでも県レベルでも個人企業レベルにおいても同様です。

さて、このような社会的背景で私たちの法人が生き残るにはどうしたらよいか？答えは簡単です。社会の要請に答えられる、すなわち望まれるスタイルに変わればいいのです。では社会は医療に何を望むか？これも答えは簡単です。**よりよい医療を安全に、安く、速やかに提供してほしい**です。（吉野家の牛丼のキャッチコピー「うまい、安い、早い」はよくできていますし、資本主義者の基本理念にも通じます。）ではどのようにしたら、よい医療を安全に、安く、早く届けられるか？それは、それぞれの**地域で医療機関が集中・分担を行い、無駄をなくして経費を抑え、ICTやAI等を活用して、すべての業務のスピードアップ**を図ることです。

これらの目的を達成するため、**地域医療連携推進法人**を設立し、**がん診療連携拠点病院**になり、**看護大学**の設立を目指しているわけです。現在行っている様々な事柄は、近未来の必然・標準　になると思います。

職員の皆さん、年報作成に当たり、過去・現在を再認識して、未来を考えましょう。そして、**さらに一歩前に進みましょう。**

巻　　頭　　言

社会医療法人蘇西厚生会　松波総合病院
病院長　松　波　和　寿

COVID-19 は燻り続け、なかなか終わりが見えない時代が続いています。５類になったことにより、社会での感染は制限することが難しい状況です。病院の経営的には感染用に病棟を準備している加減で、一般入院の数が制限され、さらには補助金も段階的に無くなる状況にあります。公営公立病院とは違い税金投入もなく診療報酬のみで運営する私立病院にとっては極めて厳しい状況であり、この状況がいつまで続くのかも予測できません。早く通常診療が需要に合うよう提供できる日が来ることを願っています。引き続き感染リスクの高い行動は控え、マスク着用、手指衛生、３密回避、室内換気など基本的な感染対策を徹底しましょう。COVID-19 以外にも地球規模の異常気象などによる自然災害、異国の戦争による資源不足、円安など、日本にとっては極めて厳しい状態が続きます。特に光熱費の高騰は凄まじく、節電により使用量は減っているものの費用は驚くほど多くなっています。常に節電にも心がけましょう。

その中において、安定して質の高い医療を継続的に提供し、地域住民を守るという責務を果たすために、今後も一丸となって進んでいきましょう。働き方改革も大きな課題で、短い時間で効率よく仕事をこなすことが職員には求められます。各部署で様々なアイデアを出してください。IT、DX、AI などの使い方をどんどん考えてください。

職員一人ひとり、全職員が持っている能力と可能性をフルに発揮してください。それが患者さん、地域医療への貢献となります。

さらなるステップへ皆で進みましょう。

巻　　頭　　言

社会医療法人蘇西厚生会
特別顧問　森　脇　久　隆

2022 年 4 月に社会医療法人蘇西厚生会特別顧問に就任しました森脇です。当法人年報に初めて巻頭言を記します。本法人は医療機関として広汎、多様な強みを発揮していますが、中でも①高度医療体制・救急医療体制が充実した②地域医療中核病院であり、その責務完遂にむけた③全職員の熱意と患者さまからの信頼感が極めて高いこと、同時に④豊富かつ高度な臨床データを解析し国際的な雑誌等に発信し続ける研究能力・機能が高いことが大きな特徴であると永く認識しており、顧問就任時にも申し述べました（本年報 50 頁「中日新聞 22 年 4 月 2 日号」）。2022 年は正にコロナ禍の真っ只中でしたが、上記の強みは逆に強調され、かつウィズ・コロナ、ポスト・コロナの 2023 年以降に向けた流れも特徴的な方向性が見えてきています。この年報では 2022 年のコロナ禍中でも発揮された本院の努力、成果をご覧頂きたく、先述の①～④に関連して小生なりに読みどころをご紹介します。

まず①高度医療・救急医療を得意とする②地域医療中核病院についてです。岐阜県の医療体制は岐阜、西濃、中濃、東濃、飛騨の 5 医療圏からなり、それぞれの圏域で大部分の医療行為はほぼ完結出来ます。一方、極めて高度な診療については必ずしもそれが可能である訳ではなく、圏域を越えて患者さまにご移動いただく場合があります。208 頁のマップをご覧ください。2022 年の市町村別退院患者数を示しますが、笠松町、岐南町、岐阜市、羽島市、各務原市（以上、岐阜医療圏）、一宮市ほか私どもにとっての近隣市町のみでなく、西濃、中濃、飛騨、さらに愛知県や三重県など圏域、県域を越えて診療サービスを提供したことがお判りいただけるかと思います。小生がすぐ思い浮かべる代表的な疾患は臓器移植後や血液疾患化学療法などですが、各診療科の特徴はセクション 3「活動報告」をご覧ください。今後とも圏域医療に軸足を置くことは言うまでもありませんが、さらにそれを越えた地域医療連携の展開も視野に入ってきつつあります。またこのような展開を図る上ではまさに③患者さまからの強い信頼感が必須ですが、特異的なインジケーターとして剖検率があるかと思います。患者さまと主治医との信頼関係を示す最高の指標で、本院では 2022 年 24 件でした（104 頁、国内トップ 5 に入ります）。

次に④研究能力・機能に触れます。業績はセクション 6（215-256 頁）の通りで、英語論文 42 点が含まれます。特にご紹介申し上げたいのはコロナ・ワクチンに関する論文が英語 3 点（229 頁 No.108 Transplant International, 231 頁 No.123 Transplantation Proceedings, 233 頁 No.136 Transplantation）、日本語 1 点（235 頁 No.148 日本医師会雑誌）掲載されたことです。一般にコロナウイルスに関する日本からの発表が極めて薄いとされる状況で、本院からの業績は質・量とも誇ってよいものと思います。

以上のような強みを総括する事項として 158 頁をご覧ください。初期臨床研修医の応募倍率は最近 5 年間で平均 3 倍を超えています。本院が医師からも選ばれる病院であることを最後にお示しして巻頭言の締めとします。2023 年もさらに発展してまいります。

巻　　頭　　言

社会医療法人蘇西厚生会　松波総合病院
特別顧問　冨　田　栄　一

2023年4月より、松波総合病院特別顧問として勤務しております冨田栄一です。私自身は、岐阜大学や岐阜市民病院で約50年間公立病院に勤務しておりましたが、今後は社会医療法人である当院でその経験を生かして、少しでも地域医療に貢献できればと考えております。

当院は、岐阜県の地域医療構想において、岐阜医療圏の急性期医療を担う病院の一つとして位置づけられており、地域医療の中での社会的任務は大きなものであると期待されております。一般診療のみならず、救急医療や高度医療の提供も必要とされており、それらを意識しながら変化の激しい医療環境に対応していると思います。DPCの病院群としては標準病院ながら、先進的な医療も行っており、今後も将来を見据えた幅広い医療の提供を目指していっているので、私もそのお手伝いができればと考えております。

医療界は、新しい薬剤の登場、医療器械の進化、ゲノム医療の進歩、AIの進出など、歴史的な激変の時期と思われますが、私たちはその方向性をしっかりと見極め、患者さんのQOLを第一に考えて医療を提供していく、その姿勢が大切であると考えております。

皆さま方には、今後もいろいろとお世話になると思いますが、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

あ　と　が　き

このたび、蘇西厚生会の 2022 年度 (令和 4) 年報を発行することとなりました。この年報により、蘇西厚生会全スタッフが我々の活動を再認識し、次年度のますますの進展につながるよう願っています。また、連携医の先生方を始め関係各所の皆様には、当院の活動内容をご理解いただき、今後ますます当院との強い信頼関係が築けていくことができましたら幸いです。

COVID-19 は第 6 波に続き第 7 波、8 波を経験しました。第 5 波までのデルタ株と異なり第 6 波からのオミクロン株は、重症者は少ないものの感染者数は激増しました。感染者が減少しない限り、医療機関の苦難は続きます。早い終息を切に願うばかりです。

まだまだ先の見えないコロナ禍の状況ではありますが、当院に与えられた使命を全うするとともに、患者さま、連携の先生方に認めていただけるよう、日々努力を重ねて行く所存です。

皆様方の引き続きのご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

副院長　診療局長　　林　　慎

年　報　2022 年度

令和 5 年 11 月 発行

発行者　社会医療法人蘇西厚生会 松波総合病院
〒 501-6062　岐阜県羽島郡笠松町田代 185-1
TEL 058-388-0111 ㈹　FAX 058-388-2391